

国語科学習指導案

指導者 岡本 恵里香

日時 令和4年11月19日(土) 第2校時 10:25~11:15

年組 中学校第3学年1組 計39名(男子19名,女子20名)

場所 中学校3年1組教室

教材 「形」菊池寛 (東京書籍3年)

教材について

本教材は、大正9(1920)年1月2日「大阪毎日新聞」に発表された、菊池寛の短編小説である。『常山紀談』拾遺卷之四「松山新助の勇将、中村新兵衛のこと」をもとにしているが、菊池が創作した部分には「若侍」が登場し、自己の象徴を軽んじて失敗した人の寓話としても読める作品である。生徒が自己の象徴とは何かを考え、称号や外見といった目に見える「形」と実力や精神面といった内面を改めて考えることを可能にする教材である。今回は、中学校学習指導要領(平成29年告示)国語第3学年のC読むこと(1)エ「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」に重点をおいて指導を行う。

生徒達は2年次に「ドラマ扇の的をつくろう」という単元で、『平家物語』「扇の的」を脚本にする活動を行った。この学習を通して、当時の文化、風習を理解し、現代と異なる当時の価値観や考えを理解し、現代と変わらない人の感情も理解することができた。本教材でも、語彙を豊かにして作品の背景を理解し、変わらない人間の姿を自己に引き付けて考え表現する姿勢を養いたい。

この作品は、生徒にとって馴染みのない言葉が多いため、辞書で意味調べをし、Google スプレッドシートに共同編集で記入する活動を設ける。この成果物を「形大辞典」として使い、生徒同士が言葉とそれに付随する知識を共有する。物語世界を味わうために、「形大辞典」とそれを作る活動を、本文理解の足がかりとしたい。また、「三間柄の大身槍」、「猩々緋の陣羽織」、「唐冠纓金の兜」などの物語のキーになるアイテムはイラストや写真をワークシートに載せて、視覚的にも理解し記憶し易くなるように工夫する。これらによって、本文の空白を補って登場人物の姿をありありと想像し、寓話的な部分や人間の愚かさも読み取り易くなるだろう。自己が無意識に感じている「形」に目を向け、それを乗り越える強さを得られるよう後押ししたい。

指導目標

- ・ 自分の分からない語彙を理解し、目的に応じて媒体を選んで言葉の意味を調べて理解する力を高める。
- ・ もとになった古典と「形」を比べて、なぜ題名を「形」にしたかを考え、本文の内容に即して表現できるようにする。
- ・ 「形」とは何か、身近な「形」を考え、自己の人生に生かそうとする姿勢を養う。

指導計画（全7時間）

次	時	学習内容
1	1	・ 本文の前半（第一場面と第二場面）を読み、「形大辞典」を作成する。
2	2	・ ワークシートを使って、前半部分を理解する。
3	3	・ 本文の後半（第三場面）を読み、「形大辞典」を作成する。
4	4	・ ワークシートを使って、後半部分を理解する。
5	5	・ 「松山新助の勇将，中村新兵衛のこと」（『常山紀談』）を読み，もともになった古典と比べて作者の創作部分を理解する。
6	6	・ 中村新兵衛の武士としての実力と精神力のピークと落ちたタイミングを考えそのグラフを新兵衛の略年譜の上を書く。
7	7	・ 「形」とは何を表しているか，なぜ作者は題名を「形」にしたのかといった間を考え交流する。身の回りの「形」を考え表現し，ものの見方・考え方を広げる。 (本時)

本時の目標

- ・ 「形」とは何を表すか，作者はなぜ「形」という題名にしたのかを考え，本文の内容に即して表現することができる。【思考力・表現力・判断力】
- ・ 身の回りの「形」を考え，ものの見方・考え方を広げることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

生徒の既習教材と生徒の様子から，歴史小説や古文も現代語訳と併記なら読めると考え，採択している教科書にはない教材を選んだ。また，新しい受験を前に不安な思いを持つ生徒にとって，本教材は自己の内面を見つめ，評価や外聞にとらわれ過ぎることの影響に気付くことが可能だと考えて採り上げた。

【授業構想力】

本文中には分かりづらい言葉が多いため意味調べの時間を取り，また「形大辞典」と称してGoogle スプレッドシートを活用して共同編集で作成させた。これによって，ありのままの生徒の語彙や知識では読めない作品も語彙を豊かにすることで理解できると共に，目的に応じて適切な言葉の調べ方を学習することができる。生徒の深い所にある思いや考えをワークシートや発言から受け取り，共感や提案をし，文書を読む力と文学作品を自己の支えにする力を共に高めていけるようにする。【授業実践力】【授業分析・評価力】

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>導入（5分）</p> <p>1. 本時の目標を2つ把握する。</p> <p>2. 「松山新介の勇将中村新兵衛が事」を、範読を聞きペアで音読する。</p> <p>展開1（27分）</p>	<p>◆評価</p> <p>・前時に読んだ「常山記談」の現代語訳と作者の創作部分を意識して、古文を音読させる。</p>
<p>【目標1】 「形」とは何か、作者はなぜ「形」という題名にしたのか、本文の内容に即して表現できる。</p>	
<p>3. 「形」とは何かをグループで交流し、全体発表する。</p> <p>4. 作者がこの作品の題名を「形」にしたのかを考え、グループで共有する。</p> <p>展開2（15分）</p>	<p>◆ワークシートの記述</p> <p>「形」が無くなったから新兵衛は死んだ、「形」を手に入れたら若侍でも勝てたという読みではなく、端的に表現されていない登場人物の実力や内面に気付いている。</p> <p>・イラストを用いて人物関係が分かるようマント事件を紹介する。</p> <p>◆ワークシートの記述</p> <p>作者が「形」という題名にした理由をマント事件も参考にして考え、自分の言葉で表現している。</p>
<p>【目標2】 身の回りの「形」を考え、自己の人生に生かそうとすることができる。</p>	
<p>5. 身の回りの「形」と、それに自分がどのように向き合うかを考え、表現する。</p> <p>まとめ（3分）</p> <p>6. 本時の学習内容を振り返る。</p>	<p>◆評価</p> <p>・手が動かない生徒に対しては、分かり易い例を教師が示しながら思考を促す。</p> <p>◆ワークシートの記述</p> <p>身の回りの「形」にある外側の部分と内側の部分の両方を考え、自己に引き付けて考えている。</p>

実践のふりかえり

広島大学附属東雲小学校・中学校国語科では、「国語科本来の魅力」を、豊かな「言葉の」作品世界に触れ、「言葉を通して」友達とわかりあい、「言葉による」学習の深まりを自覚することを繰り返しながら、「他者と関わり自分自身と向き合うこと」であると捉えている。

今年度は特に「自分自身と向き合うこと」に重点を置き、「自分と向き合い豊かに言葉を紡ぎ出す『物語の読み』の授業づくり」の実践を行う中で、必要な「教員の資質・能力」とはどのようなものなのかを明らかにしようと試みた。文学領域における、国語科で考える教科等本来の魅力に迫るための教員の資質能力の具体を以下のようにまとめた。

資質能力	視点	資質能力の具体
授業構想力	目標設定	・学習者が問いをもつことで思い浮かんだ自分の考えを、他者と交流しながら学習を進めるなど、学習者が学習の目標を設定することを、教員の立場から適切に支援する力。
	教材研究 (開発)	・作品が作られた背景や作品のもつテーマ、文章表現の特徴など、教材のもつ特性を的確に把握し、学習者の発達段階を考慮しながら、他者と関わり自分自身と向き合う単元を学習者とともに創造する力。
授業実践力	指導技術	・動作化を行ったり登場人物の心情を色で表したりするなど発達段階にあった「手立て」を練ったり、学習者の意見や理由、根拠を、教員の立場から適切に意味づけたり価値付けたりしながら、目標に向かって学習者間で豊かな言葉が行き交う学びを支える力。
授業分析・ 評価力	授業分析 評価	・学習者がどのように作品を読んでいるのか、教員による問いかけや、学習者同士の対話の中での発言や、学習者の記述から的確に把握し、学習者の変容を絶えず授業改善にいかす力。

国語科で考える教科等本来の魅力に迫るための教員の資質能力の具体(文学領域)

研究会で明らかになった、教員の資質能力の具体を次に挙げる。

資質能力	児童・生徒の姿	資質能力の具体
授業構想力	○作者がなぜ題名を「形」にしたのかを想像し、「象徴」という概念について学習者それぞれが自分の考えをもつことができていた。	自己の考えをもちにくい問いに対して、考える材料を学習者に示すために、教材文だけではなく作品の背景や作品創出に関わる作者の経験などの研究をした。
授業実践力	●「象徴」という抽象的なものを、自己の身近なところと関連させて考えることが苦手な生徒が一定数いる。	自分の考えが出てこない学習者に対して、まず学習者自身の考えを聞いて助言・支援し、答えを押し付けるのではなく学習者の言葉を引き出すような対話を行った。

授業分析・評価力	○グループで読みを共有する際、その人の意見の理由や根拠を聞くことによって、自分とは異なる考えを受け入れることができていた。	学習者が自分の考えをもっているが、その理由や根拠が曖昧である様子を見取り、当初の計画になかった活動（心情曲線）を取り入れた。
----------	---	--

今年度は特に、自分自身と向き合う文学の授業づくりを行ってきた。それによって、授業構想力及び、授業実践力について、次のような教員の資質・能力の具体が見えてきた。

○物語世界の『空白』をいかした授業構想力

中学校3年生の実践では、主人公の武士としての実力を『空白』としてとらえ、テキストだけでなく作品ができた背景も参考に自分の考えを深める実践を行った。^{*1}「空所をめぐっても学習者は多様な意見を述べるし、研究レベルでも多様な意見がある。」とあるように、生徒一人一人の読みが生まれるためには、語りつくしていない『空白』の部分がテキストには必要である。読みにくい、教えにくいと言われる教材も、定まった答えを超えた生徒一人一人の文学世界をひらく可能性がある。どのように学習者を物語作品の『空白』に向き合わせるか、そしてどのように足がかりを構想するかが、教員の資質・能力として大切ではないかと考える。

○学習者の「心理的安全性」を大切にしたい授業実践力

教員が学習者の中に入って共に学ぶ姿勢を見せることで、学習者同士が共感的に認め合う雰囲気を作ることができた。発言しやすい雰囲気をどのようにつくっていくかを常に意識して授業を実践することが、教員の資質・能力として大切であることがわかった。

【引用文献】

*1 松本修「読むことの教材論に関する研究の成果と展望」『国語科教育学研究の成果と展望』溪水社、2022年